

コープふくしまが取り組んできたこと

- ① 全国の生協から福島県に寄せられた義捐金は8億7千万円
- ② 2011年4月から放射能学習会を県内数十箇所で開催
- ③ 避難所での炊き出し活動
- ④ ガラスバッジによる外部被ばく測定サービスと学習会
- ⑤ 希望者宅の放射線量測定と除染方法などの個別相談
- ⑥ 除染ボランティアの窓口開設(現在1200名余が登録)
- ⑦ 除染応援カーの配置と無料貸出
- ⑧ 除染事業開始(行政の除染が待ちきれない方へ有料で実施)
- ⑨ 県内各地の仮設住宅でのサロン活動(心のケア応援)
- ⑩ 実際の食事に含まれる放射性物質量の測定
- ⑪ 福島県の農産物を利用してもらう取り組み

最初の放射能学習会(2011. 4. 27)

放射能とは“ナニモノカ”の学習会(4月5月県内17箇所で)



★学んだこと

放射能は怖い分だけ理性的に怖がるのが大切。

- * 3月20日ころ福島市の放射線量は20マイクロシーベルト毎時。住民は、何も知らずに緊急事態の中で生活をしていた。
- * 学習を通して「とにかく怖い」「理性的に怖がる」に変化。

ガラスバッチ(外部被ばく)測定結果を踏まえての学習会(2011年10月16日郡山市)

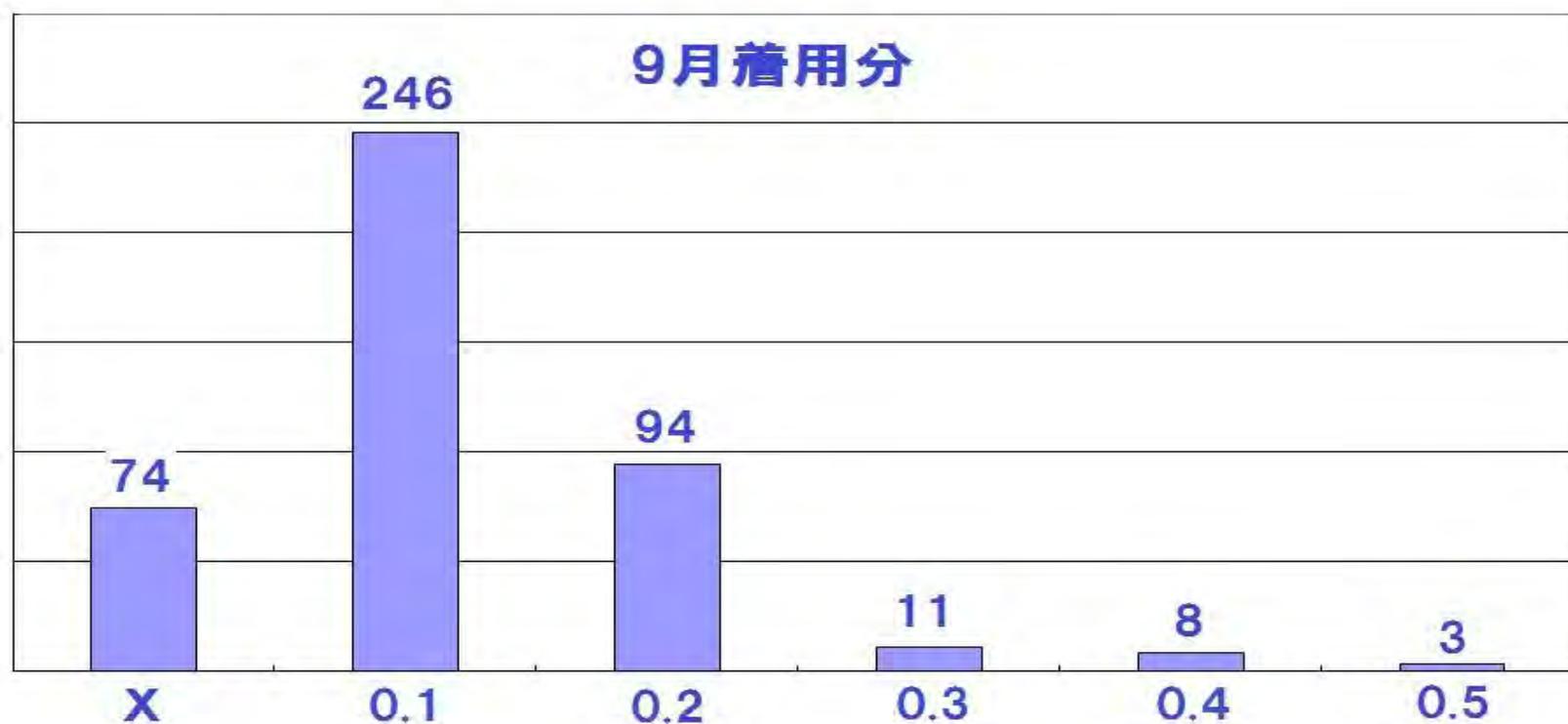


★ポイントは

外部被ばくの
結果で「ガン
になる確率を
計算するの
でなく、暮らし
方の参考にし
て前向きに活
用することが
大切。

ガラスバッジの測定結果 (2011年9月着用分)

多くの人が1ヶ月で0.1ミリ程度で毎月推移している



コープで取り組む実際の食事の放射性物質測定(2011年度に100家庭)



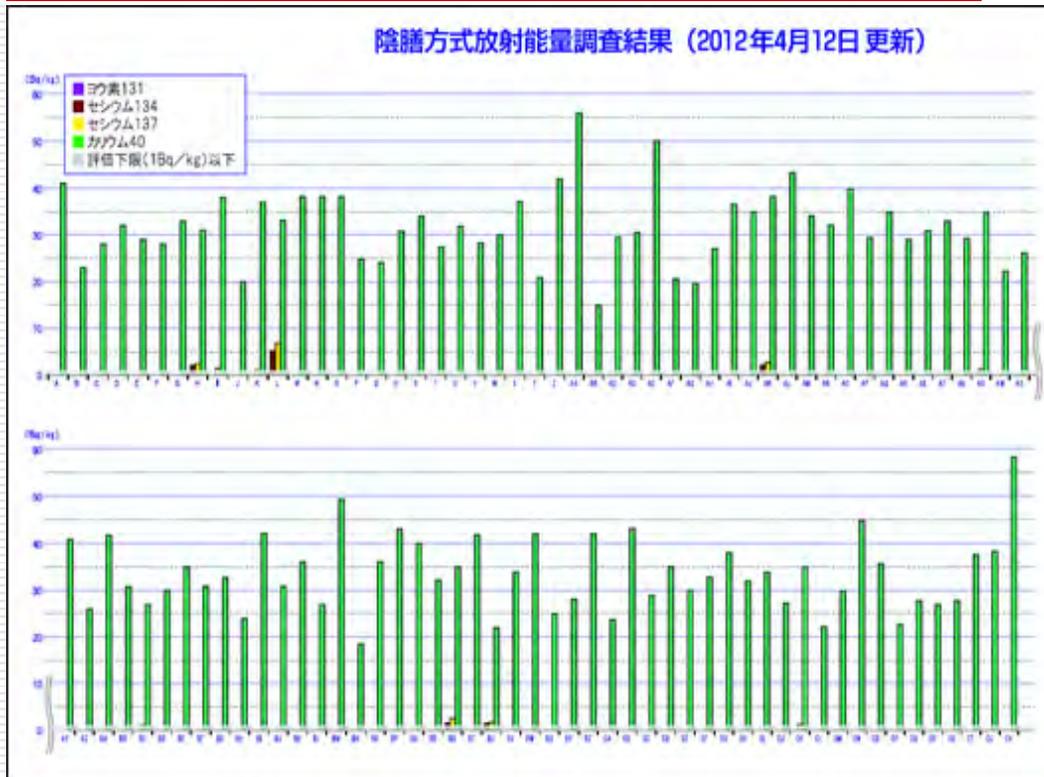
家庭の食事を一人分余計に作り、
食べた分量と同量を二日間(6食分)
保存して、日本生協連検査センター
に送る。

日本生協連の検査センターでは、届いた食事をミキサーで均一にして、その検査試料をゲルマニウム半導体検出器で14時間測定する



実際の食事に含まれる放射性物質量の測定

NPO 放射線安全フォーラムと日本生活協同組合連合会検査センターの協力を得て、「陰膳方式」による内部被ばくの測定を進めました。(2011年11月～2012年4月)



カリウム40は自然界にある放射性物質で、成人の体内に4000Bq程度あるらしい。

- 測定時間5万秒(14時間)
- 100世帯中10世帯で微量のセシウムが検出されたが、同じ食事を1年間続けても、0.02～0.14ミリシーベルトの内部ひばくと少ない値。
- 食事1kg中の放射性カリウムは15～58Bq/kgで、検出されたセシウム量は食材の違いによる家庭間のカリウムの変動幅に埋もれる。

2012年度も食事調査を続けています

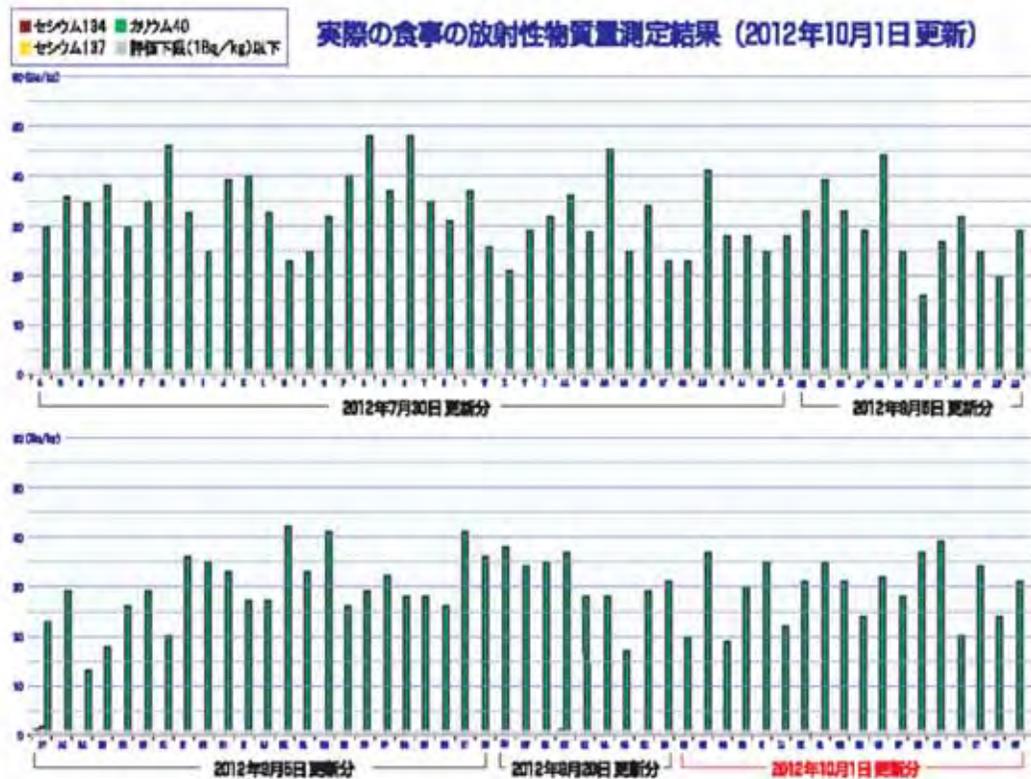
毎日の食事の安心を確かめるために、食事に含まれる放射性物質の量を測定しています

日本生協連検査センターで測定体験。
福島県の子供たちも測定にチャレンジ。



実際の食事に含まれる放射性物質量の測定

2012年度も6月より、実際の食事調査を継続してきました



- 9月末現在、100世帯中2世帯で微量のセシウムが検出された(セシウム137・134がそれぞれ1.9ベクレルと1.3ベクレル)。仮に同じ食事を1年間続けた場合、0.04ミリシーベルトの内部被ばくとごく少ない値。
- 全世帯の食事1kg中の放射性カリウム40の変動幅(13~48ベクレル)のほぼ11分の1程度。
- 今後も10月中旬から来年の1月にかけて、更に100100家庭の測定を実施していきます。

2012年度上期分100世帯の最終結果は、10月10日に記者発表しました。

食事調査に参加した方々の声(アンケートの声)

- ①このような検査をまめにやることによって、少しずつでも安心できるように自分自身がなりたいと思います。
- ②実際に食べているものを調べていただくのは、ここで生きている私たちにとって支えになってきます。
- ③他の家庭の具体的な食材の産地も知りたいです。福島産が安全だということが数字でわかれば少しずつ食卓に取り入れられると思います。
- ④県産の野菜を主に食べていたので心配でしたが、検査して大丈夫だったので安心しました。
- ⑤検査の件数が多くなればそれだけ数値は確実なものとして、福島で暮らす人たちの参考となり、安心につながっていくと思います。モニタリングは今後も継続してその都度発表していただくことを期待します。

2011年度と2012年度上期分の結果も踏まえて感じていること

- 2012年度上期の100家庭の結果が判明。検出された2家庭の値は1kgあたり1ベクレルを僅かに超える値

☆2011～2012年度上期までの200家庭の食事調査で見えたことは、食事由来の内部被ばくは、検出された家庭であってもごく少ない。(2011年度最大年間0.14ミリSV、2012年度上期最大0.04ミリSVと少なくなっている) 新基準値の根拠である年間許容線量1ミリSVに対して数%となる。

☆一方で、ガラスバッチによる外部被ばくは、平均で1ヶ月0.1ミリSVなので年間では1.2ミリSVとなる。

☆外部被ばく年間量が1.2ミリは多いかどうかの評価は別として、県民の安心を取り戻すための優先課題は、トータルで捉えれば環境除染を進めることではないか。

食事調査とWBC(ホールボディカウンタ)測定と組み合わせた理解向上の取り組み

- 2012年11月から、これまでの食事調査の参加者を対象に、WBCによる内部被ばく測定を開始。
- 公益財団法人災害復興支援放射能対策研究所(ひらた中央病院内)と福島県立医科大学放射線健康管理学講座の協力を得て測定。
- セシウム137、134ともに、検出限界300Bq/bodyとして、立位型WBC測定器で測定。
- 12月27日現在、40名測定し検出限界を上回る数値は見えていない。(測定した40名には、食事調査で検出限界(1 Bq/kg)以上のセシウムが検出された6名も含まれている)
- 食事調査の検出限界1 Bq/kg とWBC検査の検出限界300Bq/bodyは、ほぼ同水準の関係にあるとのこと。

福島県の農産物を支えとりくみ

- 東北6県の生協が福島野菜・くだものを応援する企画を2ヶ月連続 合計13万ケースの利用となりました。

40g×3 税込 使いきりタイプのロースハムです。発色剤・保存料不使用。豚肉：北アメリカ産他。国内工場品(茨城)です。 賞18日

400g 税込 酸味が控えめなマイルドな味のマヨネーズです。 賞210日

たまねぎ素材をたっぷり使用し、醤油をベースに やや甘めに仕上げた和風タイプのドレッシング。 賞180日

特別企画 **がんばろう ふくしま!**

※写真はイメージです

福島県やその周辺の地域では福島第一原子力発電所事故の影響で新たな災害ともいえる

がんばろう東北!

がんばろうふくしま農産品応援ボックスは、 6月1週～7月4週頃まで 毎週ご案内する予定です。

1399
福島県産
がんばろう ふくしま!
農産品応援ボックス1箱 **500円**

1箱 税込 出荷規制されていないのに風評被害で困っている、ふくしまの 農産物を応援しましょう。

古紙を含む再生紙を使用しています。 福岡製紙株式会社

6県の組合員さんから『福島応援企画をずっと続けて』という ありがたい声をたくさんいただきました。

1箱 税込 出荷規制されていないのに風評被害で困っている、ふくしまの 農産物を応援しましょう。

たくさんのご利用をお願いします。

福島の農産物を利用した他県の生協組合員のメッセージ(昨年から1500通以上)

- 「今週はどんな野菜が届くかな」と毎週楽しみにしています。そして届いた野菜は新鮮でおいしいです。福島のみなさんが作った野菜から『福島の気持ち』が伝わってきておいしい野菜に感謝しながら食べています。(みやぎ県Iさん)
- いつも楽しみに待っています。こんなに入って新鮮で、本当においしく頂いています。何の力にもなれないけれど。まだまだこれからも楽しみにしているので、がんばってください。子ども達も喜んで食べてますよ。(岩手県 Iさん)

福島県の農産物を支えるとりくみ(2011年)

- 大分県の生協から40名が来てJAの共同選果場や桃畑を見学して、桃を購入してくれました。
- あいさつするJA伊達みらい大橋組合長



九州大分県の生協組合員さん



桑折の共選果場

コープ東海事業連合（あいち、みえ、ぎふ）の 福島の桃を取り扱う組織的とりくみ（2012年）

伊達市にて、4月24日桃の花満開、6月19日東海コープ組合員の皆様



コープふくしまの課題

- 環境除染を実のあるものにするため、地域との積極的にかかわりを持つ。
- 食事に含まれる放射性物質の測定継続と、ホールボディカウンター測定との組み合わせによる安心向上のとりくみ。
- 生協組合員(住民)の日常の不安に応える住民目線の放射能学習活動を続ける。
- 福島県の農産物を利用してもらう取り組みの継続実施。
- 「福島県に原発はもういない」署名のとりくみ。
- 仮設住宅住民などとのかかわりを続ける。
- 福島県が忘れ去られないために、全国との積極的にかかわりを持つ。(福島県民は防護服を着て生活しているの?)

ご静聴ありがとうございました。

